

第2回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会

1. 日 時 令和6年7月26日午後6時30分～午後8時24分（1時間54分）

1. 場 所 調布市教育会館 301研修室

1. 出席委員

委員	長	阿部	光
副委員	長	徳永	孝正
委員		阿部	隆行
委員		山田	勝
委員		清水	吏
委員		川端	宏志
委員		門脇	義徳
委員		清水	良夫
委員		葦澤	加代子
委員		藤堂	文子
委員		高橋	慎一
委員		小林	力
委員		関口	幸司
委員		三井	豊
委員		泉	健一郎
委員		深沢	典充
委員		渡辺	賢治
委員		山岸	義大
委員		伊藤	宏

1. 事務局出席者

指導室統括指導主事	門田	英明
指導室統括指導主事	海馬澤	一人
指導室副主幹兼指導係長	佐藤	晋太郎
スポーツ振興課長補佐兼係長	吉野	秀郷
スポーツ振興課主任	村山	宏樹
スポーツ振興課主任	岡部	瑞希

1 開会

○司会（阿部）　　こんばんは。まだ来ていらっしゃる委員の方がいますけれども、定刻となりましたので、ただいまより、第2回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を開催したいと思います。

申し遅れましたが、私、この4月から教育部に入りました阿部と申します。こちらの小林の後任でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、御多忙の中、また、お忙しい時間帯にもかかわらず御出席いただきましてありがとうございます。

それでは、次第に入る前に、事務局から資料の確認をよろしくお願いいたします。

○事務局　　資料の確認をさせていただきます。

本日、資料1から資料7までございます。次第に加えて資料1から資料7までです。不足のある方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料の確認は以上でございます。

○司会　　ありがとうございます。

この会議につきましては、前回もお話をさせていただいておりますけれども、この会が公開ということで、本検討委員会の議論を広く市民の方に周知をして、取組の理解促進を図る必要性もあるため、本日の議事内容については録音をさせていただきます、記録を作成の上、後日、ホームページで公開を予定しておりますので、あらかじめ御承知おきいただければと思っております。

それでは、早速、議事のほうに入りたいと思うのですが、その前に、本日、今お手元に次第があると思っておりますけれども、そちらを御覧ください。本日の流れを簡単に説明させていただきますと思います。

この後、開会を正式にいたしまして、その後、メンバーが結構替わっていますので、こちらの検討委員について事務局から報告をさせていただくことになっております。

3番で、これまでの検討経過ということですが、この間、部会を開いて検討してきていますので、その検討経過について事務局から報告をさせていただきます。

また、事例紹介。本日は、本来であれば第四中学校の副校長先生に来ていただく予定だったのですが、所用で来られないということですので、こちらは動画で御紹介をさせていただくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日のねらいというか、目的というか、今回の目玉については5番と6番になり

ます。5番の調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画（素案）を作成いたしましたので、こちらの説明をさせていただきます。また、6番、トライアル事業ということで、トライアル事業を幾つか選定していますので、こちらについても御説明をさせていただきますこととなります。

したがいまして、5番、6番が終わった後に皆さんから御意見、または御質問等をいただければと思っておりますので、御承知おきいただければと思います。

それでは、早速ですが、次第に沿って進めてまいります。次第1、委員会の開会に当たりまして、この4月に、教育部副参事兼指導室長に着任をしております小林力よりごあいさつを申し上げます。

○小林教育部副参事兼指導室長　皆さん、こんばんは。ただいま御紹介いただきました副参事兼指導室長の小林力でございます。本日は、御多用の中、第2回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会に御参加いただきまして、ありがとうございます。開会に当たり、一言申し上げます。

委員の皆様には御存じいただいているとおり、これまで学校部活動は、学校教育において大きな役割を担ってきました。しかし、近年は、部活動加入生徒数が減少していること、また、競技等の経験に乏しい教員による指導が続いていること、また、各団体や指導者と学校との連携、そして教職員の休日の大会引率等、多々、諸課題が指摘されているところ です。

改めて確認をさせていただきますと、国は、令和5年から令和7年までを改革推進期間と位置付け、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携すること、学校外の多様な地域団体が主催する地域クラブへの移行について、地域の実情等に応じて可能な限り早期に実現するように、各自治体に求めているところです。

こうした国の動向を踏まえて、今後の学校部活動の地域への移行を進めるに当たり、本検討委員会において部活動の今後の方向性について共通理解を図ること、地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという意識の下、調布の地域資源を活用したスポーツ・文化芸術活動の機会の充実を図る検討を行っていただきたいと考えております。

余談になりますけれども、私もこの4月に着任をいたしましたので、この進捗状況等を知る中で、東京都の中でもかなり計画的に進められているなと感じますし、皆さんの熱意や、調布の資源を活用すれば子どもたちにとって本当に有益な活動が進められるのではないかなと感じている次第です。

最後になりますけれども、未来ある調布市の子どもたちのために、また、子どもたちを支える教育関係者や、地域の方を含めた多くの関係者のために、委員の皆様のお力をちょうだいしながら、この会を進めてまいりたいと思いますので、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

以上になります。

○司会 小林室長，ありがとうございました。

2 検討委員会委員について

○司会 それでは、続きまして、次第2，検討委員会委員について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料1を御覧ください。改めてのおさらいになりますが、簡単に御説明させていただきます。

まず第1に、設置の目的についてです。調布市の中学校の生徒における豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向け、学校部活動の段階的な地域連携及び地域移行について検討するため、本会を置くものでございます。

第2の所掌事項でございます。まず、部活動の地域連携及び地域移行の在り方に関すること。また第2として、仕組み作りに関すること。第3に、その他必要な事項に関すること。こちらの内容を本検討委員会で議論させていただきたいと思っております。

第4の任期についてです。教育長が任命した日から年度の3月31日までとなります。本日の委員の任期は令和7年3月31日までとなります。その他は後ほど御確認いただけたらと思います。

引き続き、資料2について御説明をいたします。

令和6年度の委員は名簿に記載のとおりとなります。委員の任命につきましては、こちらの名簿の配布をもって代えさせていただきますので、御承知おきいただけたらと思います。

説明は以上です。

○司会 ありがとうございます。

年度が切り替わって、前回は昨年度末、3月の終わりのところに、この検討委員会を開催しましたので、そこから人事異動等で行政側のメンバーが若干替わっているということでございますので、御承知おきいただければと思っております。

本来ですと、ここで一人一人にごあいさつをいただこうかと思ったのですが、時間が結構かかりますので、一人一人のごあいさつは割愛させていただくということで、よろしくお願いいいたします。

3 これまでの検討経過について

○司会 それでは、次第の3番に、早速進んでまいりたいと思います。これまでの検討経過に移ります。

前回の検討委員会から本日に至るまでの検討経過をまとめていますので、事務局から説明をお願いいいたします。

○事務局（吉野） それでは、私から説明します。お手元の資料3を御覧ください。

昨年度、令和6年3月26日に第1回検討委員会を開催し、調布市における部活動の地域連携、地域移行に向けた検討がスタートいたしました。当該会議において調布市としての方向性について事務局からお示しし、委員の皆様から御了承をいただいたところでございます。その後、検討委員会の下部組織として検討部会を立ち上げまして、この間、3回にわたり会議を開催し、推進計画に関する検討を進めてまいりました。

また、推進計画の検討に当たっては、既に地域移行に取り組んでいる茨城県つくば市、静岡県静岡市、千葉県柏市の3自治体に行政視察を行いまして、先行事例について部会メンバーに共有しながら議論を深めてまいりました。本日の検討委員会では、こうした検討経過を経て、事務局で取りまとめた推進計画の素案についてお示しさせていただきますので、忌憚のない御議論をお願いできればと思います。

私からの説明は以上です。

○司会 ありがとうございます。後ほど、皆さんから御意見等をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

それでは、順次、進めてまいります。

4 事例紹介

○司会 4番、事例紹介になります。もう既に学校単位で地域移行が進んでいる事例というのがございますので、本日は第四中学校の事例紹介ということで動画を御用意しておりますので、動画を御覧いただければと思っております。では、準備をよろしくお願いいいたします。

(動画再生開始)

調布市立第四中学校副校長の千葉と申します。まず冒頭に、本日、この場に参加できませんで大変申し訳ございません。

本校の事例紹介をさせていただくに当たり、録画ではございますが、本校の事例を幾つか紹介させていただきますので、よろしくお願いします。

なお、聞き取りづらい部分があるかと思いますが、御了承いただければと思います。では、始めます。

まず、これが、令和6年度現在の部活動、そして部員数でございます。運動部が1から6番、野球、男バス、女バス、男バレ、女バレ、ダンスの6つ。そして、文化部が吹奏楽、科学、茶道、華道、美術、将棋部というように6つずつ展開しております。

また、合計数は、3年生を入れた数ですけれども、カッコの数字が1～2年生の数字になります。よって、野球部などを見てお分かりのとおり、チームの数が9人に達しておりませんので、今年度は六中と合同チームを組んで今、大会に入っているという状況でございます。先日、初戦を突破したということでございます。

また、いずれ合同チームの御紹介等もできればと思いますが、現在はこのような状況で展開しております。

では、ここからが本題となります。異なる2種類の事例を御紹介させていただきます。1つは男子バスケットボール部、そしてサッカー部となっておりますが、正式にはクラブです。サッカークラブの御紹介をさせていただきます。

まず、これまでの背景として御説明をさせていただきます。働き方改革に合わせて、部活動の精選・縮小が行われました。当時の校長先生の方針で顧問2人体制を基本として展開しておりました。令和4年度には合唱部の廃部、そして令和5年度には総合運動部と呼ばれるものの部活動の廃部が決定しておりました。総合運動部というのは、令和4年度に単体で活動していたサッカー部、そしてソフトボール部を合わせたものでした。彼らが3年生になったときに活動の保障、最後までするという形で総合運動部として展開をしたというところです。

サッカー部に関しては、再度、昨年度、選手権大会では違う部活動の生徒を借りて8人で大会へエントリーしたという経緯がございます。そして、活動自身がなかなか十分にできなかったコロナ禍の影響もございました。顧問の無理のない範囲での活動ということで、スポーツのスキルを上達させるというところにおいては、なかなか十分な時間の確保が難

しい現状があったと。

そして、今ミニバスと書いていますけれども、地域、それから、そのOB、例えばサッカー部だったOBの地域に住んでおられる方々の様々な声、地域の期待などがあって、それをなかなか具現化、実現できていないというような状況がありました。

では、男子バスケットボール部です。こちらは、昨年の令和5年度4月よりクラブとして活動を始めました。外部コーチは2名、社会人のコーチです。大会に出る中体連の登録は、まだ調布四中として展開しています。平日は、部活動として活動していて、顧問が私を含めて3人いますので、平日は18時まで活動しております。最終下校6時まで活動しています。ほかのクラブとか部活動と同じ時間帯で活動しています。

そして、休日の活動は、クラブとして展開しております。クラブは、目的外使用団体の1つということで、目的外使用の団体に登録をしてもらって、施設等、セコム等の管理もすべてお任せして、教員が不在の中で活動を行うようにしています。

本来であれば、スポーツ振興の保険が適用されるのですが、休日はクラブとして展開していますので、別途、年間800円程度ですか、クラブのほうに主になっておいてもらって保険に入ってもらって、生徒一人一人が年間800円を保険に払っているということで、何かけが等の対応をしているという状況です。

また、練習試合の引率は、教員がいなくてもできる状態を取っていますので、保護者とクラブで対応してもらって、完全に土日に関しては学校の手を離れているというような形で展開しています。

ただ、完全なクラブ移行とは違うというところなのですが、例えば、組織を決めるに当たって、我々顧問と相談をしたり、それから、学校の様子、生徒の様子、生徒に指導したことなど情報共有をコーチとしながら、子どもたちがバスケットボールを通して、よりよい中学生の人格形成を目指してやってほしいという思いの下、展開しているのが、この男子バスケットボール部になります。そのためには、コーチ陣、それから、地域の良好な人間関係がベースにないとなかなか難しいかなと思っております。

たまたま私が令和4年度の12月に異動してきたのですね。ちょっと画像が違うのですが、昨年度、クリーン作戦というのがあって地域の清掃をする活動の中で、当時のPTA会長からバスケットボール部の置かれている状況を聞いて、どういう形で子どもたち、それから、地域の思いを何とか実現できないかなというのが最初の発端でございました。

では、2つ目の事例です。今度はサッカークラブのほうになります。これは、学区域である若葉小学校で活動する若葉S Cというのが今もありますが、このクラブの運営に携わっている方が立ち上げた団体でございます。四中のサッカー部の廃部というのは令和4年度の段階で方向性が決まっていたので、そういった中で地域から、サッカーをしたいという生徒、子どもたちの受け皿がなくなる、何とかしてほしいという地域の声を受けて、その代表が立ち上がったというような形でございます。

その際に、四中の地域のクラブとして活動するのか、はたまた一般のクラブとして純粋にSSC、サッカークラブを立ち上げるのかということで選択を迫った経緯がございます。

どういうことかという、クラブですので、たくさんの受講生を抱える、経済的な面でもセレクションしながら、地域強豪クラブにするために、いろいろ地域から取っていく一般のクラブなのか、はたまた四中の生徒たちの地域の受け皿として展開するのかというところで選択を迫ったところです。もし四中の地域のクラブとして活動するということであれば、施設面のところにおいてもクラブに対して協力をさせてほしいというような話を学校側からもしていました。

それによって、サッカークラブのほうはどちらの選択をしたかという、四中の生徒の受け皿としてクラブを展開していくということで、平日は月曜と水曜4時～6時で校庭を普通に使っております。ただし、部活動ではないので、顧問はついていませんし、顧問というものは存在しません。あくまでも地域のサッカークラブが四中の施設を利用しているという状況です。そして、休日に関しては、目的外使用団体、先ほどの男子バスケットボール部と同様ですけれども、野球部に次ぐ部活動クラブとして優先的に校庭を確保しています。優先権がなくなると、どういうことになるかという、それ以外にも少年野球とか、テニスとか、様々な地域の団体が、この目的外使用団体として校庭を毎週、時間は朝から晩まで、びっしりと埋まっていますので、サッカークラブが地域の枠として活動する時間帯を押さえることが非常に難しいというのが実情でございましたので、その時間を確保するということで、先ほどの四中の生徒の受け皿というところを展開したというようなことを聞いています。

このサッカークラブですが、入会金、年会費、月の会費等がございます。表にありますとおり、地域のほかのサッカークラブの例も挙げておりますが、そんな色ないぐらいで、むしろ安くはないですけれども、同じような金額を生徒・家庭からいただいております。それは、こういったコーチ陣の支払い、それから、大会運営、大会参加費といった必要な費

用ですので、基本的には受益者負担という形で家庭がクラブに支払いをしているという形になります。

立ち上げた当初は、よく、同じ活動なのに、どうしてサッカーのほうはお金がかかるのですかといったようなお問い合わせを保護者の方からいただくこともありました。クラブのほうで説明会を開いてもらうなどして、塾などの選択の1つと同様ですという形で御理解いただいているところです。

顧問は、先ほど申しあげたとおり不在ですので、おりませんので、私が、この地域のクラブとの窓口になっているというところです。生徒の情報のやり取りなどは一切しておりませんので、先ほどの男子バスケットボール部の活動とは完全に異なっていて、本当に地域のサッカークラブが運営しているというところで、施設の利用に関しては四中を使うというような活動になります。

2つ事例を御紹介しましたがけれども、当初、こういった部活動の移行うんぬんというよりも、先生たちの負担を何とか減らしたいという思い、それから、とはいえ、地域や子どもたちの活動、期待、思いを何とか実現させたいという思いから、それを考えて実現させていったら、結果、このような形になったというような言い方が正しいのかなと思っています。

これからも、地域にある資源を友好的に活用し、みんなにとって、よりよい活動ができるように励んでいきたいと思えます。

つたない説明にはなりましたが、これで本校の事例紹介を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○事務局　ただいまの四中の2事例について、本市の地域連携・地域移行の先行事例の1つという形で、今後協議をしていただく形でイメージを持っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○司会　ありがとうございました。

本日、千葉副校長先生、本当はいらっしゃるという話だったのですがけれども、所用があって来られないということでした。先生がいらしていれば、またいろいろな質問等もできたかなと思いますけれども、今日は一応、御紹介だけということで御承知おきいただければと思います。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

5 調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画（素案）について

○司会 次に、次第5、調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画（素案）について入りたいと思います。それでは、事務局から説明をよろしく願いいたします。

○事務局（佐藤） 説明させていただきます。資料5をお願いいたします。時間に限りがありますが、少し長くなります。御了承ください。

まず、1枚おめくりいただいて、目次をお願いいたします。全体の構成については6章構成となっております。第1章では、目的や位置付けの整理。第2章では、調布の部活動の現状と課題を整理しています。第3章では、現状や課題を踏まえた市の目指す方向性。第4章では、目指す方向性を実現するための各項目の基本方針を定めております。第5章で本計画期間における具体的な取組を記載しております。第6章は、今回お示しませんが、参考資料を掲載する予定でございます。

では、1ページをお願いします。まず、策定の背景ですが、こちらは、これまでの国や東京都の動向を記載しております。国が示したガイドラインを受け、東京都としても推進計画というものを作成しました。この区市町村は、本計画に基づき、令和6年度の早期に地域連携・地域移行に向けた方針と計画を策定するというのが示されておりますので、このような状況を受け、調布市においても計画の策定を進めております。

では、次に2、策定の目的になります。市の実態に合った地域連携・地域移行を進めるために、それぞれの取組の中長期的な方向性を示すとともに、短期的な本市の取組を示し、部活動の地域連携・地域移行の推進を図ることを目的に、この計画を作っております。

では、2ページをお願いします。3、計画の位置付けについてです。計画期間は、調布市の前期基本計画の計画期間と合わせ、本年10月から令和8年度までとし、その間の具体的な取組と展望を示したいと思います。令和9年度以降については、国や東京都の動向を踏まえるとともに、調布市の後期の基本計画と整合させ、計画を改定していきたいと考えております。

では、3ページをお願いいたします。ここからは、調布市の部活動の現状と課題についての記載です。少し触れさせていただきます。

まず、中学校数と生徒数ですが、市立中学校8校、令和6年4月1日現在で生徒数は4,441人です。全国的には少子化が進展する中、本市の中学生人口は、今後、微増傾向が続き、令和11年をピークに減少に転じる見込みとなっております。

次に、部活動数についてですので、4ページをお願いします。部活動数、部員数と参加率

についてです。

中学校に設置されている部活動数は、運動部が78部、文化部が42部、部員数は3,740人、参加率は運動部53.2%、文化部30.6%、合計83.8%となっています。こちらは令和5年度の数値です。近年、部活動数に変動は見られないのですが、生徒数が増加している反面、部員数や参加率は減少傾向にあります。

5ページと6ページが、実際に学校の部活動の種類と部員数の表になります。詳細は割愛しますが、一部では学校単位での活動が困難になっている状況も見られ、今後の生徒数の減少を見据えると、このような状況が拡大するのではないかと思います。また、一部の学校にしかない部活動もありまして、生徒の多様なニーズに応じた活動場所を確保していくといった視点も必要かととらえております。

7ページをお願いします。休日の部活動の実態です。調布市の方針では、休日に部活動を行う場合は、土日のどちらかを休養日とし、1日の活動時間は原則3時間程度と定めています。この指針に基づき、中学校は休日部活動を行っております。ちなみに、休日に毎週活動をしている部活動の割合は運動部で約97%、文化部では約23%となっております。

8ページをお願いいたします。教員の実態についてです。約9割の教員が顧問、副顧問という形で部活動指導に携わっていることとなります。一方で、部活動顧問のうち「専門的な技術指導ができる」と答えている割合が運動部、文化部ともに約60%にとどまっており、顧問として技術指導に携わるのが難しい状況となっております。

続いて、9ページをお願いいたします。次に、教員の負担についてです。

まず、長時間勤務の実態ですが、令和5年度の中学校教員の1人当たりの月平均時間外勤務が「約35.5時間」、時間外勤務が「45時間から80時間未満」の教員が28%、「80時間以上」が4%であり、多くの教員が長時間勤務の状態にあります。また、国の調査によると、教員の土日の在校時間2時間18分のうち、1時間29分が部活動、クラブ活動を事由とした在校時間となっており、多くの教員が部活動を理由に土日に勤務しているという実態もございます。

次に、教員の意識についてです。東京都の調査によると「部活動の指導や運営を負担に感じている、やや感じている」教員が8割近くおります。教員が部活動について困っていることとして「家族との時間や自分の趣味・研究に費やす時間がない、休みがない」と回答をしている方が多いです。

また、部活動の指導や運営により支障が生じている業務として「教材研究、生徒指導」が

多く上げられております。

さらに、市の調査で休日の部活動が地域移行された場合に「地域人材に任せたい」と回答した教員は58%、「兼職・兼業して引き続き指導したい」と考えている教員は22%でした。このように、多くの教員に部活動の指導や運営を事由とした長時間勤務の実態があります。

続いて、12ページをお願いいたします。部活動の地域連携の状況についてです。本市においては、教員に代わって技術指導や大会引率ができる部活動指導員の配置や、教員をサポートする部活動外部指導員などが部活動指導に携わっています。令和5年度の実績ですが、部活動指導員が約14%、部活動外部指導員が約29%の部活動での活動にとどまっていることから、専門的な技術指導を行うために今後はさらなる確保、配置が必要ととらえております。

以上が調布の部活動の実態となります。

続いて13ページをお願いします。第3章「市の目指す方向性」についてです。国や東京都の方針、また、調布市の現状を踏まえて、市の目指す方向性を定めております。

まず、目指す将来像についてです。こちらは最終のゴールイメージとなります。地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てるという意識の下、調布の地域資源を活用した持続可能な地域クラブを整備することで、部活動を学校教育活動から地域に移行し、調布の子どもたちが生涯にわたって地域の中で主体的に様々な運動、文化芸術活動を楽しむことができるまちづくりが進められている、このようにさせていただきました。

続いて、本計画期間、令和8年度までの計画における推進目標についてです。令和9年度から、すべての休日部活動において地域連携か地域移行を実施し、生徒が指導経験のある地域人材等による指導を受けられている、こちらを目標に掲げたいと思います。

※に書いてありますが、これは兼職・兼業の届け出をした教員、部活動指導を行う教員も含んでとなります。

また、当面は、地域連携と地域移行の取組が併存しますが、最終的には、地域クラブを立ち上げる地域移行の取組を拡充させていきたいと考えております。

また、最下段の※に書いてありますが、後期の計画期間、令和9年度から12年度においては平日の部活動の取組を進め、令和12年度を目途に、平日を含めたすべての部活動において地域連携か地域移行の実施を目指してまいりたいと考えております。

次に、15ページをお願いします。第4章「部活動の地域連携・地域移行における基本方針」です。

様々な取組を進めるに当たり、この5つの観点で、中長期的な視点を含め方向性を整理し

ましたので、簡単に説明をさせていただきます。

まず、方針1，地域におけるスポーツ・文化芸術活動環境の整備です。

初めに、①として、生徒のニーズを踏まえた環境の整備ですが、学校部活動・地域クラブ活動は、生徒の自主的・自発的な参加が基本となります。技能等の向上や、大会で好成績を収める以外にも、気軽に友達と楽しめる、適度な頻度で行えるなど、生徒のニーズに応えた活動を行える環境整備を検討します。

次に、②として、運営団体、実施主体の確保です。様々な地域資源の中から、学校部活動へ指導者を派遣していただく協力団体の確保や、学校部活動に代わって地域で生徒を受け入れる新たな地域クラブ活動を提供する団体の確保、創出に努めてまいります。

続いて、16ページをお願いいたします。③地域クラブ活動の在り方についてです。地域クラブ活動は、学校部活動の教育的意義や役割を地域に継承しつつ、生徒が地域でスポーツ・文化芸術活動に継続的に親しむことができる場となります。学校教育の中で行ってきた部活動を、地域の中のスポーツ・文化芸術活動に生徒が参加する形に再構築し、生徒が地域とかわる機会を創出することで、地域のスポーツ・文化芸術振興の活性化も期待できるとらえております。

続いて、④関係者間の連携体制の整備です。地域クラブ活動の実施では、様々な対応を教員ではなく地域クラブ活動の団体が行うこととなります。これまで学校管理下で行ってきた部活動を地域クラブ活動に移行した際には、様々な運営上の課題が考えられることから、地域クラブ活動の団体や学校、また、市の関係部署が緊密に連携を図ることが必要となります。そのため、各種連絡調整を担うコーディネーター役の配置を含め、今後の展開を検討していきたいと思っております。

では、17ページをお願いします。方針2，指導者の量の確保と質の向上についてです。

初めに、指導者の量の確保についてです。地域移行に先立ち、地域連携による部活動にも取り組む必要がありますので、今後も部活動指導員や外部指導者の配置を拡充していきたいと考えております。また、兼職・兼業の許可を受けた教員が指導者として登録できるような仕組みについても検討していきます。

なお、運動部活動については、調布市スポーツ協会を中心に、専門的な技術指導ができる地域人材の把握や発掘に努めるとともに、指導者を学校や地域クラブ活動とマッチングできる人材バンクの整備を検討します。

また、文化部活動についても同様に、指導者の確保に向けた仕組み作りについて検討して

まいります。

次に、②指導者の質の向上です。指導者の量の確保と併せ、資質向上の取組を進めていく必要があります。市は、地域クラブ活動の運営団体等に対し、研修会の開催やガイドライン等の情報提供を行うなど、指導者や生徒、保護者が共通理解の下、安心して活動に参加できる環境を整備してまいります。

続いて、方針3、活動場所の確保についてです。

地域クラブ活動の運営団体は、活動場所を自身で手配し、確保することも想定されます。また、合同部活動においても活動場所の確保が必要です。こうした活動場所の確保に当たっては、学校施設はもとより、その他の施設における活動時の取り扱いの整理など、活動場所を確保しやすい環境作りに努めてまいります。

なお、学校施設を使用する際は、地域クラブ活動の参加者が他の教室等に入らないよう、学校施設のセキュリティー対策も検討する必要があります。

18ページをお願いします。方針4、地域クラブ活動における費用負担と保険の在り方についてです。

まず、会費の設定についてですが、地域クラブ活動に参加するための会費は受益者負担となります。ただし、保護者の過度な負担にならないように、可能な限り低廉な価格設定に努める必要があるととらえております。

なお、経済的な理由で地域クラブ活動への参加ができない生徒が出ないように、配慮が必要な世帯への支援について検討してまいります。

続いて、保険の加入についてです。地域クラブ活動の運営団体は、指導者や参加する生徒が、自身のけが等を補償する保険や個人賠償責任保険への加入を義務付けるなど、けがや事故が生じても適切な補償が受けられるような仕組み作りが必要になります。

では、19ページをお願いします。最後に、方針5、部活動指導に対する教員のかかわり方です。

まず、教員の負担軽減、大会等の在り方についてです。令和5年度からは、中体連においても地域クラブ活動に所属する中学生の参加を認めるなど、大会の在り方が見直されております。そのほか、持続可能な大会運営の実現に向けて、今後、大会の在り方の見直しがあった際には、適切に対応を図ってまいります。

次に、地域クラブでの指導についてです。部活動が地域クラブ活動へ移行した際も、地域クラブ活動での指導を希望する教員が兼職・兼業の許可を受けられるよう、規定や運用の改

善を行うとともに、活動場所を確保できるよう、人材バンク制度との連携について検討してまいります。

20ページをお願いいたします。これまでの説明が中長期的な基本の方針の説明になります。20ページからは「計画期間における主な取組」、少し具体的な取組を記載しております。

まず初めに、部活動の地域連携・地域移行に関する検討委員会の開催。こちらは、本会のことになりますが、関係者間で構成する会議において、進捗状況を共有するとともに、御意見をいただきながら今後の取組につなげたいと思っております。

続いて、情報発信についてです。児童・生徒や保護者、教員、地域団体等に対し、本市の取組の方向性や進捗状況について、様々な媒体を通じ情報発信をし、取組の理解促進を図ってまいりたいと思います。

3番、地域連携に向けた取組についてです。後に説明しますが、合同部活動のトライアル事業を行い、成果や課題の整理、また、今後の支援の在り方について検討します。また、全面的な地域移行までには、当面、単独の部活動や合同部活動が継続することが想定されますので、部活動指導員や外部指導者の配置、拡充に努めていきます。

では、21ページをお願いします。4、人材バンク制度の整備についてです。こちらは、先ほど説明した内容になります。調布市スポーツ協会が中心に人材バンクの整備、検討を進めてまいりたいと思います。

最後に、5、地域移行に向けた取組についてです。第4章で説明した基本方針の考え方を基本に、休日の学校部活動の地域移行を進めるため、地域クラブ活動のトライアル事業を実施し、効果や課題を整理、検証しながら、調布の地域資源を活用した調布モデルを創出、検討していきたいと思っております。

調布モデルの創出に向けては、先行事例、先行自治体の研究を進めながら、地域クラブを統括する運営団体の確保に向けた検討や、地域クラブの種目などに関する考え方、費用負担の在り方などの整理を進め、全体のスキームを検討するとともに、体制整備を進めていきたいと思っております。

下に書いてあるポンチ絵については、運動部活動における地域移行のイメージ案となります。後に御確認いただけたらと思っております。

22ページをお願いします。地域連携・地域移行に向けたロードマップになります。令和9年度及び令和12年度にそれぞれ目標を掲げております。この目標達成に向け、各取組内容を整理した表となっております。詳細は割愛しますので、後ほど御確認いただけたらと思いま

す。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○司会 ありがとうございます。質疑は、この後のトライアル事業の説明が終わったら一括して行っていただきますので、よろしく願いいたします。

6 トライアル事業について

○司会 それでは、次第の6番、トライアル事業についてに入りたいと思います。こちらについて事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局（吉野） では、トライアル事業について私から説明します。お手元の資料6を御覧ください。

先ほどの推進計画素案の説明でもございましたが、市としては、令和9年度から、すべての休日部活動において地域連携か地域移行を実施して、生徒が指導経験のある地域人材等による指導を受けられていることを目指してまいりたいと考えております。

こうした目標を達成するために、まずは、令和8年度までの計画期間において、地域連携及び地域移行のトライアル事業の実施等、具体的な取組を進めることとしております。

本日は、令和6年度におけるトライアル事業について、現在検討中の案を御説明いたします。この間、検討部会での議論はもとより、事務局による校長会との意見交換なども行いながら精査を進めている内容でございますが、まだ方向性の段階ですので、今後の連携先との調整等の過程で変更や修正となる可能性もございますことを御承知おきください。

まず、地域移行のトライアルです。こちらは、休日の部活動における合同部活動を実施してまいりたいと考えております。市立中学校の部活動の現状について、先ほどの推進計画素案の4ページにも記載がございましたが、全体の部活動数に大きな変動はないものの、生徒数の増加という傾向がある反面、部員数ですとか参加率は減少傾向にあります。また、部員数が少ないことで、試合への出場選手数を満たせないなど、学校単位での活動が困難になっている状況も一部見られ、今後の生徒数の減少を見据えると、このような状況が拡大することが想定されます。

こうした状況を踏まえ、トライアル事業では、1校でのチーム編成が困難な団体競技の一部について、合同部活動を実施することで、生徒の活動機会を確保してまいりたいと考えております。

具体的には、サッカー部と軟式野球を想定しております。サッカー部は第三中学校と第

七中学校，また，調布中学校と第五中学校の組み合わせでの合同部活動を想定しております。

軟式野球部については，先ほど第四中学校の事例紹介でもございまして，既に実施はされておりますが，第四中と第六中での合同を想定しております。

合同部活動のイメージとしては，合同となるどちらかの学校のグラウンドを活動場所とし，時には活動場所をスイッチ，交換しながら，両校の生徒と一緒に練習を行います。

合同部活動の回数については，学校と協議しながら決定していく予定でございます。

また，合同部活動の実施に当たりましては，調布の地域資源を有効活用するという観点から，トップスポーツチームと連携した指導者派遣による練習会の実施も検討しております。生徒の競技力向上の機会を創出してまいりたいと考えております。

こうした合同部活動を実施する中で，各学校の状況をモニタリングし，学校現場で生じる業務の可視化ですとか，また，課題の整理を行いながら，次年度以降の取組につなげてまいりたいと考えております。

また，地域移行に向けたトライアルとしては，地域クラブ活動のモデル実施を検討しております。こちらは地域クラブ活動ですので，合同部活動と異なり，市立小学校所属の生徒であればだれでも参加できる仕組みを想定しております。

具体的な種目として，現在，運動系，文化系から1つずつ検討しております。1つ目は多種目スポーツです。こちらは，子どもの多様なニーズに対応するために，これまでの部活動のように1種目，1競技に絞って取り組むのではなくて，子どもたちが多種目のスポーツを体験できるような活動とすることで生徒の，例えば運動神経の発達促進ですとか，生涯スポーツとしての幅の広がりなどにも資するものと考えております。

また，本活動は，競技志向ではなく，だれもが楽しく様々なスポーツを体験できるエンジョイ志向を活動のコンセプトとすることで，参加のハードルを下げ，スポーツへの親しみやすさを打ち出していきたいと考えております。

また，文化系につきましては，現在，第三中学校と第六中学校にしかない囲碁部について，他校の生徒の体験機会の確保を図るために，トライアルとして地域クラブとしての実施を検討しております。囲碁部については，現在，地域連携の取組として，市の囲碁連盟から指導員を学校へ派遣する取組が既に実施されておりますので，そうしたスキームを応用して，休日の地域クラブ活動のモデルとして実施を検討しております。

これらの活動につきましては，今後，回数や場所，連携先などを詰めながら具体化させ

てまいりたいと考えております。

このほか、現状の部活動にはない、例えば、スポーツクライミングなどのアーバンスポーツですとか、大学連携を活用した取組についても検討してまいりたいと考えております。

これらトライアル事業の実施を通して、その成果や課題の整理、また、検証などを行いながら、調布の地域資源を活用した地域移行のモデル、いわゆる調布モデルについて検討してまいりたいと考えております。

私からの説明は以上です。

○司会 ありがとうございます。

次第に沿って進めてまいりました。今説明があった5の推進計画の素案、また、6番のトライアル事業を中心に、皆様から御意見や感想などをいただけたらと思っております。どなたか御意見や御感想はありますでしょうか。といっても、なかなかあれですよ。私のほうから少し指名をさせていただいて、ちょっと御意見等をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今回、スポーツ協会さんのところも実際に、推進計画素案の中に入っているのですけれども、この辺を踏まえて、門脇委員から何か御意見とか御感想があればいただきたいのです。よろしいでしょうか。

○門脇委員 今回、実際に柏市の活動を視察しました。また、この間、スポーツ振興課とも意見交換をしつつ、検討部会に出席しているスポーツ協会係長からの報告及び検討部会の報告書も拝見しました。まず、検討部会の中の校長先生のご意見を、あえてここで1つ確認したのですが、部活動に関して、教育的価値というか、教育的な意義に共感し継承してくれる人でないと任せられないという意見が載っていましたが、スポーツ協会側はあまりその部分に重心をおくつもりはなく、学校から切り離すという考えのもとで、その部分について学校側は理解をしているのでしょうか。

検討部会の議事録や出席者から話を聞くと、教育から切り離さないようなイメージもあったりする。生徒を外部指導員、教員以外の指導者が指導することに、もちろん様々な分野を教えることも必要だが、教員ではない指導者が入ってくることに、教育的な意義の部分について、検討部会ではどのような議論がされたのでしょうか。

教育的な意義が、今後もずっと求められるのが気になります。答えにくい質問ですが、いかがでしょうか。

○事務局（門田） 御質問ありがとうございます。この推進計画素案の中にも記載をさせ

いただいているところなのですけれども、地域の子どもは、学校を含めた地域で育てていきたいと思いますというところでお話しさせていただいています。

今いただいたように、学校から離れることについてというところなのですけれども、やはり、これまで学校部活動が担ってきた意義というのは、やはり大きなものがあるので、その意義を継承した形で、地域に広く子どもの活動の場を広げていくと。多くの大人の中で子どもを育てていくことで、より子どもの多様性、ニーズに合った、沿った成長を促していけるであろうと。

であるからして、学校はもとよりなのですけれども、より広く地域に活動の場を広げていって、子どものよりよい成長につなげていく、そういった大きな考えが大本にはありますので、学校から切り離すという考えが大本にはなくて、より、今の子どもたちの多様なニーズに沿った活動にしていくために地域の力も借りて、子どもの多様なニーズに対応していく、地域と一緒に子どもを育てていくといったスタンスになるかなと考えています。

○門脇委員 教員が指導するのと、教員ではない者が指導するのでは、立場が全然違います。教育的な部分で言うと、例えば私が指導するのと、教員が指導するのでは、生徒や保護者に対しての印象も違いますし、教育的な部分になると、意味合いがかなり違ってくると感じています。

例えば、先生の立場では教育的な指導をしなければならないが、兼業届を出してまで、先生方は割り切ってやってくれるのでしょうか。

○事務局（門田） やはり地域に移行していくというところで、やはり、マインドリセットといいますか、いわゆる学校部活動という考え方を、もう変えていかなければいけないだろうというところがあります。

それなので、指導という面では、やはり子どもにきちんと、競技力の向上であったりだとか、これまで部活動で担ってきた質の部分ですね、そういったものは、やはり地域に開かれた際も一定は担保していかなければいけないという思いはありますので、今後の話になりますけれども、指導者に対しての研修などを通じて一定の質の確保といったところは取り組んでいかなければいけないと考えています。

○門脇委員 なぜ、こういうことを聞くかというところ、我々がコーディネートして指導者を確保し、学校単位で活動をしたとして、部活動をやってきた教員が、今でも外部指導員がいらっしゃると思いますが、割り切って生徒を送り出してくれるのでしょうか。

この間、柏市の話を聞いたときも、中学校単位でのクラブを、平日、休日と活動してい

て、休日も教員が担っているクラブもありました。

休日のみ一般の指導者が指導することについて、教員の指導者は割り切ってくれるのかというところが、非常に心配です。保護者の考え方かもしれませんが、クラブということになったときに、学校側が割り切って、教育的価値という言い方がいいのか分からないですけども、切り離せるのでしょうか。

○小林委員　私はもともと小学校の教員で小学校の校長をやっているのですが、中学校とは縁遠いので、学校側の立場で今までどうだったかという話はなかなか難しいのですけれども、私、調布のこの会議体の話をいろいろ聞いたりとか、今回提案させていただいている推進計画を拝見したときに、ここの会で大事にしているのは、やはり子どもなのだということを感じたのです。

私、調布に来て特に思うのは、子ども一人一人を大事にということが常に語られているのです。教育委員会においても、地域においても子どもというのをすごく大事にしているという認識にあるのです。

そういった中で、改めて自分のスポーツ人生、部活動人生を考えたときに、今の子どもたちに当てはめて皆さんとも共有したいなと思っていることは、例えば、私、小学校で少年野球をやっていました。当時は昭和なので、少年野球などというのは公園に行ったらできるような状態だったのでですけども、そこでクラブチームを作るといって作り上げて私は少年野球、軟式野球をやっていました。

では、中学校に行ったときにどうなるかという、受け皿はもう地域の活動ではなくて部活動しかなかったの、簡単に言えば、中学校に行って野球部に入るか入らないかの選択しかなかったのです。高校に行っても、多分そうだったと思うのです。

最近の子どもたちとか自分の子どもなどを見ていると、そもそも現在でも、学校の部活動が語られる以前からも、特にJリーグとかの発足で顕著だったと思うのですけれども、サッカーなどは受け皿が、どちらかという地域スポーツ、部活動というよりも、例えばFC東京の下部組織でやるとかというチャンスもどんどん広がってきて、あとは多様な活動が増えていく中で、必ずしも部活動をやらなくても小学校の延長でクラブチームで体験をしたりという機会が増えてきたのだなと感じているのです。

そう考えていくと、まず大事にしなければいけないのは、子どもたちが続けたいとか、やってみたいという活動がまず用意されているかということになってくるのですけれども、ここで、今この推進計画でも語られているように、そもそも教員の働き方は後に置いてお

いても、維持することがなかなか難しい状況にあるというのが前提としてあるのだと思うのです。

だから、本当に残念なことに、中学校の選択制の理由の1つが部活動ということがある。近くで続けたい体験ができない、活動ができない子どもたちが増えていったりとか、あとは教員の異動はすごく難しいのです。小学校は全科だから、教員が1人異動しても次の教員が来れば何とか効くのですが、中学校の場合、例えば、数学の教員が出ると決まったら数学の教員を呼んでこなければいけないのです。

それさえも今は難しい時代なのですけれども、部活動を維持するとはどういうことかという、数学の教員で野球部の教員が抜けたら、数学と野球ができる教員を連れてくることは、ほぼ不可能なのです。

そうしたことからすると、例えば、その学校で野球部が強くて、これからも地域としても応援していきたいという中で、そういう人材がなかなか育ってこないということだったり、例えば、自分が野球をずっと続けてきた方が教員になったときに、その学校に野球部の先輩の教員がいると、そこで野球部ではなくてバスケット部になったりして、自分の得意な分野で活躍することができない状態が生まれてくるのです。

ですから、そもそも、中学校の部活動は、子どもたちにとって適切な指導者が確保できるかどうかというのは、ずっと昔から難しい状態にあったということだったと思うのです。そうした中で、では、そもそも子どもたちの活動とか体験を確保しようということで本市の検討委員会で進めていると思うのですけれども、そこがまず最初に押さえなければいけないところなのかなと思っているのです。

ただ、今御指摘いただいたように、教員の中には、当然ですけれども、自身のキャリアの中で部活動をすごく大事に生きてきた人材がいると思うのです。ですから、移行するにしても兼職・兼業をして自分は部活動にずっと関わっていきたいという教員がいると思うのです。そういった、部活動に対して並々ならぬ意識を持っている教員にとっては、もしかすると、今御指摘いただいたように、当たり前ですけれども、土日移行しても自分は兼職・兼業してやりたいという方もいるだろうし、土日がかなわなかった場合でも、やはり土曜日、外部から入ってきた方々が、自分が平日に進めてきた活動と全く違う方針でやられるのは嫌がるという部分があると思うのです。

ただ、この辺りは、先行自治体の課題とかも含めて整理していかなければいけないところで、特に過渡期においては、平日の部活動と土日の活動をどのようにつなげていくのか、

もしくは、つなげないのかということ、やはり明らかにしていかなければいけないなどいうことを私としても感じているのです。

最後に、何を申しあげたいかという、改めて考えたいなと思っているのは、今まさに、今回トライアルでも申しあげているところですが、子どもたちにとって活動が確保できない状況が生まれてきている中で、それをどうやって確保していくのか。私も、思うと、部活動で培った人間関係とか、部長をやったときにチームをまとめていたりとか、仲間を論していくことは社会に出たときに必ず役に立っているのです。そこを教育的な意義ととらえると、学校の中でというお話は出てきてしまうと思うのですが、それは学校の部活動でなければ得られないものかといったら、そうではないので、まずは子どもたちの活動を確保するという方向で本市は進めていくのがいいのかなと。

すみません、長くなりました。

○司会　では、川端委員。

○川端委員　私の意見を述べる前に1点だけお願いというか、検討してもらいたいのは、5章の計画の3番、地域連携に向けた取組のところ、教員の兼職・兼業も並行して進めていってもらいたいと思います。検討いただければと思います。

あとは、先ほど門脇委員がお話しされていたのと延長になるかもしれないのですが、トライアル事業の三中、七中のサッカー部の外部指導員をやらせていただいています。その中で、おっしゃりたいことはこういうことなのか、勝手に解釈していますが、先生は部活動の子どもたちに生活指導もするのです。外部指導員は先生でもないし、普段学校で子どもたちを見ていないですから、この子はどういう性格で、どういうふうなのか、そこまで知らないわけです。

だから、例えば、本スポーツ協会から、人材バンクから部活に人が派遣されますといったときに、生活面とか、学校での指導的な要素でやらなければいけないのかというような不安とかも絶対に出てくると思うのです。私などは結構、あっけらかんとした性格なので、子どもたちと友達感覚でやっちゃっているところがあるのですが、先生たちは「ちゃんとシャツを入れなさい」から始まったり、水を飲むときは「しっかりと、時間を取って水を飲みなさい」という、一部始終、生活の中でも教育をやられたりしているのです。そういったところが、外部移行をしていったときに、ちゃんとそこまで、今までの部活どおりに見なければいけないのかという問題が出てくるのかなと思います。

スポーツだけ教えてくださいとなれば、これってもう、ただのまちクラブじゃないです

か。さっきお話があったようにF C東京の下部組織に入るべきとか、でも、こう言っているうちに、クラブというのは生活面、子どもたちの成長を促進させていくという意味合いも含まれているのかなと感じられているので、ぜひそういったところも御検討の材料にさせていただきたいなと思います。

○司会 ありがとうございます。そのほか、何か御意見ございますか。

○門脇委員 先ほど私が何でそういう話をしたかという、議事録の中に教育的意義とか、それを共感してくれる人ではないと指導者として任せられないのではないかという意見が載っていたからです。それに対して、スポーツ協会からの出席者も、であれば、スポーツ協会ではなくて教育に携わっている人がコーディネーターをしたほうが良いのではないですかという意見を返しています。その辺のことは整理されているのかという確認です。

スポーツ協会はコーディネーター役を受けることは構わないが、コーディネーター役になったときに、学校からそのような意見が出てしまうと、指導者派遣に支障が出る可能性がある。検討部会の中でその意見に対しての議論が見当たらないです。

回りくどい言い方になってしまいましたが、第1回検討部会の議事録にあります。一委員の意見でしたら構わないですが、そのような意見をどのように整理されたのでしょうか。素案にはコーディネーター役として既にスポーツ協会が入っていますが、この場で触れておきたいと思いました。

○司会 はい。

○葦澤委員 調和SHC地域クラブですけれども、いろいろな競技を指導されているコーチ陣は教員ではないです。教員の方、私の知っている限りでは一人いらっっしゃいますけれども、テニスを指導されている方が教員経験者ですが、やはり教育というところで行くと、教えて育てるところ、競技種目において経験のあるコーチに子どもたちを指導していただいている。一応、面談をして、クラブとしてはこういう形で子どもたちに指導していただきたいので、では、いいですねという形をお願いしているのですけれども、子どもたちも、教員ではありませんが、コーチに対して先生と言ったり、コーチとか言ったりして楽しく活動に参加しているのがほとんどなのです。

やはり競技によって、サッカー部はないですけれども、ボールとかラケットは大事なもののなので、ぞんざいに扱わないようにだとか、ぶったりたたいたりするものではないとか、そういうことも教育という考え方の1つではあると思うのです。楽しく過ごすという部分があっても、教育というのは、すごく大きい意味ではありますけれども、そういう形でそ

それぞれのコーチが熱心に指導されているというのがSHCの現状です。

○司会 ありがとうございます。SHCの現状を踏まえて御意見をいただきました。ほか、何か御意見、御感想でも構わないのですが、いかがでしょうか。清水委員、どうでしょう。

○清水委員 1回目のときにもお話しして、大分、私の頭が固くなってしまったなと思ったのですけれども、現状、教員の置かれている立場だとか、また、学校を応援していく方面の、教員は少ないとか、大変だという話を聞いております。

子どもたちが、どうやったら部活動とかスポーツを楽しんで、いい経験をして育っていくかということが第一目標なのでしょうから、変わっていかねばいけない部分は変わっていかねばいけないということで、もう先を見て学校の部活動はなくなっていくわけだから、今までのやり方では駄目だということが前提ですよ。

それなので、それをどうやったら置き換えられてやっていくかと。とりあえず今の計画は、令和9年までは休日の活動を取りあえず移行してみましよう。それは、今現状ある部活動の体制の中で休日の活動だけをちょっと変えてみて、外部の力を借りてみようというのが、この計画ですよ。その後、令和12年を目標に全面的に変えて、移行していこうということでもいいのですよ。

そうすると、とりあえずは、休日の活動の中で外部の方々がいく。外部の、具体的に指導者が、ではどうやって派遣するかということで、今、スポーツ協会のほうの人材バンクを作ってみたりということであると、今出てきている教育的な指導のことが問題になってくるというのがあると思うのですけれども、そういうことはなしで休日をやる、やってみる、どういう問題が起きるかというのをやらないと分からないのではないですか。

では、部外者に、人材バンクで入ってきている人を教育的な指導ができるような教育なんか、実際にできないですよ。そうすると、今までやってきてもらっている経験者の中で、経験力の中で子どもたちに指導してもらおうというのが前提なので、当初は多少、学校の先生が干渉しなければいけないことは出てくるのかなとは思っているのですけれども、でも、やってみなきゃいけないかなと思いました。この際。

もう1つ、今あるサッカーと男子野球が出てきていて、ほかの部分もできればトライアルでやっていこうということになっていくのでしょうかけれども、もう1つ、さっき言った地域移行の推進の2つ目の多種目スポーツのどうのこうのというのがあるではないですか。部活動とは別にそういう機会を作ってみたらどうかということなのですかね。

○事務局（吉野） 令和9年度に目指しているのが地域連携・地域移行が混ざり合った形で子どもが外部人材による指導を受けられるというところを目指している中で、トライアル事業については、いわゆる地域連携の合同部活の推進と地域移行である地域クラブとしてのモデルをやってみようという考え方で今進めていまして、多種目スポーツというのは、その後者のほうです。

○清水委員 学校単位の新しい部を作るという形ではなくて、完全別個で、地域のクラブというか？

○事務局（吉野） そうです。どの学校の生徒も参加したい方は参加して大丈夫ですよという、広域的なクラブ活動をモデルとしてやってみよう。その回数については、令和6年度下半期からなので、数多くはできないと思うのですが、トライアルということで、まずはスモールスタートをしてみて、その中で、在り方というか、場所とか、回数とか、指導者と生徒の関係とか、あとは学校とクラブの関係とか、行政とクラブの関係、いろいろな論点というか、課題が出てくるのかなと思うのです。

どういふ調布モデルを作っていくのかという議論をしていく中においては、清水委員がさっきおっしゃいましたけれども、まずやってみるというところがないと。我々も実践を経てその分析というのが必要だと思っていますので、そういった地域移行のクラブのモデルをやっていく。

○清水委員 どちらかという、既成のスポーツではなくて、何かスポーツをやってみたいよとか、体を動かしたいよとかというようなことをもって子どもたちに集まってもらおうみたいな？

○事務局（吉野） はい、そういったイメージ。

○清水委員 何か、みんなこっちに行きそうだね。

○司会 今、清水委員がお話しいただいたように、皆さん、今お話があったみたいに、まずは地域連携というところで、土日ですとか休日の部活動を教員が基本的には携わらないような状況になっていくと。そこから先のところについては、今、委員がおっしゃっていただいたみたいに、やってみないと分からない部分は多々あると思います。やりながら少し考えてみるというところもあろうかなと思っていますので、そういうところを踏まえながら、実際に今後、中学校の部活動について現場を一番よく御存じだと思いますので、山田委員から何か御意見等があれば、お聞かせいただきたいと思います。

○山田委員 部活動の地域移行とか学校から切り離すという議論というのは、私が覚え

ている限り30年以上前から何回も出て潰れてきている、その経緯ってやっぱり教育的価値うんぬんというところに学校がこだわってきたという部分があるのだろうなというのは、重々分かっていることで、今回、大きくかじを切っていただいている流れに乗らないと進めていけないのではないかと思います。そこの部分について、こだわり過ぎていくと進まないよというご意見には私も賛成の立場。ただ、中学校の校長全員がそうかと言われると、そこはまた違うという、そこは学校のほうも変わらないといけない部分になっていくと思います。

ただ、やってみないとという部分で、実際にじゃあこういうチームでやってみませんかというやりとりとかが連携の部分であれば必要になってくるのかなと。同じチームの立場をバトンタッチしたりとか、あるいはその場と一緒に行って指導観をそろえることについては密にして進んでいかなくちゃいけない部分もあるのかなと。

地域移行で考えていらっしゃるようなところについては、部活動ではなくいろいろな民間クラブのサッカーチームに行っているくらいの感覚で 対応していく必要があると思います。

○司会 ありがとうございます。では、全体の総括的なところは阿部先生にまだお願いしたいと思うのですが、この間の議論の中で、先生が何か感じられたことがあれば、お願いできればと思うのです。

○阿部委員 私も元中学校の教員で部活の顧問もやっておりましたし、今も横浜市の中学校で外部指導員をしている。研究も部活とか、体育スポーツ教育学とかまさに地域移行・地域連携はテーマになっているのですけれども、最後のまとめはまとめであります、ちょっと気になっているところは、部活動の地域移行は、スポーツ関係、運動部というようにフォーカスが当てられがちなのですけれども。文化部、特に調布市は美術と吹奏楽がすごい部員数を抱えているところで、では、休日をどうしたらということ。

休日の活動があるかないかはまた別としてここを地域の人材にお任せするとか合同でやるということも踏まえて考えていかないと。生徒のニーズとして文化部も忘れてはいけない部分があるので、運動部と同時にやっていく必要があると思います。

あとは、すみません、多種目スポーツに関して、私は専門なのです。他の自治体で実践があるのですが、参加する中学生はどういう中学生が多いかというと、本当に、スポーツは好きなのですけれども、大会に出るほどではない。別に、大会で優勝を目指そうというような子ではなくて、集まったメンバーで何かスポーツを楽しみたいというぐらいのモ

チベーションの子であったり、普段美術部で同じ姿勢で絵をかいているので、体を動かして、それがまた美術の姿勢につながるみたいなところの子なので、今までの大会を目指す部活動とは一線を引く活動としてとらえていただければと思います。

そういった意味では、潜在的なニーズは、もしかしたら既存の大会に出る部活動よりもあるかもしれないので、今後トライアルは楽しみな部分もあります。

○司会 ありがとうございます。小学校の校長先生の立場から、清水先生、急に振ってしまって申し訳ないのですが、御意見等あれば。

○清水委員 特に意見ということではないのですが、小学校の子どもたちを見ていると、今は深大寺小学校なのです。地域まつりで中学生が合唱の発表をしております。去年は杉森小学校の校長でした。夏まつりで吹奏楽部が演奏してくれます。

そういう中学生の姿を小学生は、ものすごいあこがれを持って見えています。それは、やはり技術のうまさ、あとは礼儀の正しさなどもあるのですね。そういう子どもたちを見ていると、僕は三中に行くとか、神中に行くというようなことを言う子どももいますし、小学校1年生ぐらいだと、私、三中に受験するという1年生もいるぐらいで、部活というのが小学生に対しても大きく影響するなど。

平日と休日というように分かれて考えているのだけれども、では、中学生の子どもたちから考えるとどうなのだろうと。平日だからこう、休日だからこうというよりも、同じ野球をやるということであれば平日も休日も同じ思いでやっていくのではないかなど。生活指導等については、中学校の教員としての指導もあると思うのですけれども、教員ではなくて人として、例えば、先ほど蕪澤さんもおっしゃったあいさつをちゃんとするとか、先輩として敬うというのは学校の教員ではなくても大人として指導してもらえるのではないかなど。それをさせていただくことがとても大事なことかなど。

その上で、子どもたちと、学校の先生たちと共有しながら上を目指していくのか、あるいはエンジョイ志向なのかというようなことも探りながら、部ができるといいなど、お話を聞いていて思いました。

○司会 ありがとうございます。それでは、お2人の委員から、文化部における取組というところで、今回のクラブの中にも文化部のところは薄い状態になっているので、その辺も含めて、今後の想定があれば、今日は文化生涯学習課が来ているので、渡辺委員からちょっとお話しいただけると。

○渡辺委員 文化生涯学習課の渡辺でございます。まずは、文化部の中でも、資料の申

で大学連携にも触れておりますので、そういったところを御説明させていただければと思います。

文化や教育、スポーツなどによって相互に発展を図ることができるように、地域の7大学と相互協力協定を締結し、それぞれの大学の特色を生かした各種共同事業といったものを通じて、まちの魅力を発展、高めることができるような様々な取組を行っております。

先ほどの推進計画素案の6ページを拝見すると、1番から4番までについては、協定大学の1つである桐朋学園さん、9番、15番、16番などの理工系に関しては電気通信大学、こうした、各大学の特色を生かした連携というところが見据えられるかなというような感想を持っているところです。

その中で、例えば、電気通信大学につきましては、7大学のうち、最も早い時期と思えますが、平成15年5月に協定を締結しておりまして、この間、16年以上の長きにわたって連携を深めております。

その取組の一例としましては、市との共催で、中学生以上を対象に、平成29年度から毎年6回程度開催をしておりますサイエンスカフェC h o f u。この取組の中では、気軽に楽しみながら科学について学ぶことができるような講座として、年間200人弱の方に参加をいただいて、科学について学ぶことができる講座となっております。

そのほかにも、小学校の5年生から高校生までを対象としたプログラミング教室でありますとか、女子中学生と高校生を対象とした匠ガールイベントといった講座、また、小学生から大学生までを対象としている学力向上アプリコンテスト、こういった取組を市と市教育委員会の後援によって開催をしております。

さらに、市から私、文化生涯学習課長と、市教育委員会から指導室の三井学校教育担当課長の2人が企画運営委員会に参加をしております調布少年少女発明クラブといった取組についても10年以上の長きにわたって運営をいただくなど、とりわけ若年層向けの公開講座を数多く開催していただき、幅広い後継の分野において、多くの子どもたちの学びの機会を提供させていただいています。

こうした取組をしっかりと把握した上で、電気通信大学を始め、東京慈恵会医科大学であるとか、白百合女子大学とともに、市政経営の基本的な考えの1つに据えております産学協同のまちづくりのパートナーとして実際に取り組んでいるところであります。

経過、背景、こういったことを部活動の連携に向けた考えをしっかりと整備しておく必要があるのかなというように論点としては考えておりまして、この間、一部の大学関係者

の方とフラットな意見交換をさせていただく場がありますが、連携に向けた方向についてしっかりと、前向きに検討していくべきだというような御意見もいただく一方で、現実的な諸条件についてはしっかりと協議が必要ですねなどというようなことも御意見としていただいていたわけでありませう。

具体的には、既存の事業との関係性の整備であるとか、どの時期から、どの分野において、どういった内容で、会費などについても含めて適切な諸条件の下での協議をしていくべきだというようなことを聞いておりますので、そういったことが求められていくのかなと考えております。

今後の検討におきましては、こうした協定締結大学はもちろんでありますので、この検討会議のメンバーにも参加しております文化・コミュニティ振興財団を始め、国際交流センターや文化協会などとも、多様な主体との連携を踏まえて、今後、相互に発展していくことができるよう、連携を図っていく必要があるかなと考えております。

○司会 ありがとうございます。今、大学連携のお話もいただきましたけれども、文化部として、この取組自体は可能ということの理解でよろしいのですね。

○川端委員 ごめんなさい、例えば、文化部が今各学校で週に何回活動しているとか、美術部は週に2回していますよとか、そういうのはカウントされていますか。大学との連携というお話もあったと思いますけれども。

○渡辺委員 先ほどの資料の中での表記をもとにお話をしています。

○川端委員 では、年に6回とかというのは、本当に適切な数なのか。サイエンスクラブとか、科学部さんはやはり週に1回活動したいなというときに、どういう方をお呼びしてとかというような、そっちの話にすごいなっているじゃないですか。ただ、今お話を聞いている限り、文化系のクラブに関しては、調布市はそこまで話が進んでいないのかなという印象を持ってしまったので是非検討いただきたいと思ひます。

○司会 大学連携の取組も、これからまたいろいろ検討していく必要があるのかなと思ひますので、また文化部として、しっかりとその辺を確認しながら、また進めていければと思ひています。

今日は、あと、感想でも構わないのですが、文化・コミュニティ振興財団の藤堂課長も来ていますので、この間の感想等、何か一言いただければと思ひます。

○藤堂委員 文化系のほうで財団にお伺ひいただいているようなこともあると認識していますけれども、財団のほうで指導者の方々に付き合っているわけではないのです。ア

ティストと付き合っていますので、アーティストが必ずしも指導が上手かというのはまたいろいろあると思うのですけれども、先ほど資料の中に出ているような、指導に見合った方という判定ではなかなか難しいなと思っていて、音楽ですとか、もちろんアーティストさんたくさんおられますけれども、恐らく、本当に指導するということになったら桐朋さんとかのほうが、ある意味、ふさわしいだろうなど。

財団も、どこまでそういう部活に対してできることがあるかというところ、なかなか難しいところもあるかなと思っておりませんが、できるとしたら、演劇、せんがわ劇場のほうにいる、DELというチームに関して、演劇コンクールの入賞された方で地域にアウトリーチをしたりということに興味がある方々が相互に連携してというか、その経験、ほかでも豊富な方たちなので今、学校にも行っていますが、アウトリーチをしまして、七中さんに行ったりですとか、不登校のクラスに行ったりとか、そういうことをやっていて、かなり密に、学校へ連携をとって事前の打ち合わせから、年に何回、1学期の間に何回とか、その後、振り返りをして、かなりの分量でやっているものもあります。

ただ、先ほどからお話があったように、では、週に何回行くのだとか、週に1回——私が部活と思ってやるのは、やはり学校の部活までは指導したことがないのです。小学校の学芸会の指導で行ってもらったことがあって、それは短期間だと思うのです。1箇月とか学期ごととか。

部活って年間でそうやって行くというのが、どの程度、彼らにできるのか。そうなった場合に、相当負担が大きい。彼らも自分の地域劇団活動をしていますし、せんがわ劇場のワークショップの事業にもかかわっていますし、そして、アウトリーチ。この分量が多くなったときに、時間的な問題、労力的な問題と、プラス、彼らに渡せる謝礼。この問題はかなり大きくて、アウトリーチに行くにしても予算的な問題もかなり大きくて、学校側の予算、劇場側の予算の中で。

では、すごく格安で、ほとんどボランティアでやってもらっているみたいな状況は、持続できない。本当にやっていく上では、そういう整備をちゃんと整えていかないと、続かないものになるのかなと。

○司会 ありがとうございます。文化部的な視点から、今、お2方から御意見をいただきました。全体的にこういうことを言いたいよということはいかがでしょうか。

○小林委員 時間が遅い中、たびたびすみません。文化部のことで。

ちょっと個人的な話になって大変申し訳ないのですけれども、うちの息子は今、中三で、

吹奏楽を3年間やってきました。学校にも外部講師とか専門家とかに来ていただく機会が、私が子どものときと比べたら大分あって、いろいろ専門的な方、演奏家の方が来て指導してくださるのですけれども、私の息子はパーカッションをやっています、そうすると、パーカッションって後回しになってしまっていて、なかなか来ないのです。

パーカッション、何か専門的な人に学びたいなということを家でぼろっと言ったものから、私は今府中市なのですけれども、府中市の青少年吹奏楽団の演奏とかを聞きに行き、団員を募集しているから行ってきたらどうという話で行って、これでもう3年なのです。

結局、では、息子が平日の部活動と、休日には楽団があるのですけれども、切り分けているかという、楽団はあくまでも自分のスキルをアップするために行っていると。部活動はその成果を発揮するために行っていると。個人の中で結構整理されています。今後、恐らく土日に移行していったときも、では、土日の位置付けをどうするかということを確認にすれば明らかになるなと思っています。

また後で事務局から話があるのでしょうかけれども、この後、生徒からも話が聞けるので、そういったところで、もし仮に土日が分けられたら、どんなことをやってみたいのかとか、どれぐらいやってみたいのか聞くこともできるし、多分、私の息子の入っている楽団も不定期。定期的にはいるのですけれども、時によって不定期になるときもあるので、それに合わせて自分が行っているということなので、恐らく土日と平日の分けはある程度すっきりするのではないかなと思うのです。

ただ、その先は、完全に移行していくとなってくると、また話は違っていて、やはり来ていただく方々に定期的な収入がなかったらかなり厳しいので、そういったところを予算的に確保しておかなければいけないかなと思うのです。

それと、小学校の校長だったから言えるのかなと思っているのは、小学校にも地域のスポーツクラブはたくさんあって、体育館で活動しているバスケ部があれば、校庭でやっている野球部があったりとか、いろいろクラブがあったのです。コミュニティ・スクールだったので、そういった方々に委員に入ってもらったので、子どもたちの様子の交換をしていました。学校ではこういうことが課題ですとか、スポーツクラブでも最近こういうことで指導に困っているのだよねという話があって、そこは結構協力しながら、お互いのところで指導するという場面もあったのです。

そうすると、調布市の場合、来年度全部の学校がコミュニティ・スクールになるという

ことを考えると、今後本当に移行していったときに、では、地域の連携の方々には委員に入っていて、情報共有しながら、できる役割分担をして、生活指導とかもできるのかなと思うと、結構できる土壌は調布にあるのかなと思いました。

ただ、やはりいろいろ課題はあるので、また御意見をいただきたいと思ひますし、子どもの話を聞いてみたいなという話はしています。

○司会 ありがとうございます。そのほか、何か。門協委員。

○門協委員 13ページに、推進目標として、令和9年度からとなっていますが、検討部会でも議論はされた認識ではいますが、我々スポーツ協会としては、令和9年度というのはなかなか厳しい日程ではないかと思っています。素案には指導経験のある地域人材と明確に書かれており、人材バンク制度の整備の部分にも、専門的な技術指導ができる指導員とありますが、すべてを令和9年度からというのは、難しいかもしれません。

一方で、必ずしも大会に出場することや上手になりたい子どもたちばかりではないという認識もあり、そういったところも広めていく必要があるとの認識も持っています。クラブ化したとしても、専門的な指導者が必ずいなければいけないということではなく、例えば、大学生がみるとか、それは指導経験がない学生でも良いと思ひます。そういったことも活用していかないと、なかなか難しいです。

既存の120部活動がそのまま120クラブになったとしても、それを先生方が兼職でやっていただく、それを我々がカバーしていくとなると、すべての者が指導経験必要といったことになるかと非常に難しいと思ひます。計画は計画でいいですけども、令和9年度にすべてそうなるかという、なかなか難しいなと思ひています。

○司会 御意見ありがとうございます。そういった部分の御意見をいろいろ踏まえて、事務局のほうでも調整していくことになろうかなと思ひます。

その他、ほかに何か御意見、御感想等、何でも構わないので、何かございますでしょうか。そうしましたら、全体を通して阿部先生から、総括的なコメントをいただければと思ひます。よろしくお願ひします。

○阿部委員 それでは、長時間、お疲れさまでした。調布の推進計画素案の中で、私もいろいろな自治体の実践を見てきて、ある自治体はとんざしていたり、反対意見が多くて進まない、いろいろ出てきている中で、では、調布市のこの推進計画はどう成功に結び付くかというのを皆さんの議論を伺いながら考えてみたのですが、3つ柱があるかなと思ひておられます。

推進計画の中には、生徒のニーズにこたえる、生徒のニーズを踏まえるのがまず第一です。やはり、こういう場は大人だけの意見。こういう活動をやったら生徒が来るのではないかみたいなどころでの議論が多い中で、では、それは本当に子どもたちのニーズに合っているのかという議論がすごく必要かなと思ひまして、検討部会の中でも生徒の意見を聞きましょうということによってきたのですけれども。

資料7のほうに、そういったような機会があるということで、すごくいいなおもっています。

2つ目は、調布モデル。キーワードのところですよ。いろいろな自治体の成功事例を見ると、その地域だから成功しているというところもある。先行しているつくば市とかのものも、つくば市のやり方だから成功しているのであって、それをそのまま調布市に持ってきても失敗しか見えないのです。それなので、調布市だからできることを、もっと前面に押し出していく必要があるのかなと。

例えば、委員の方からもありましたけれども、これぐらいだったら私の段階でもできそうだなというような御意見がありました。そういったところをどんどん広げていって、この団体はここができる、この団体はこういうのができるというのを少しずつ集めていくことによって調布モデルが出来上がってくるのではないかなと。地域資源の活用の部分ではそれを出していく必要があるのではないかと思います。

あと、ここは2つ目の柱、失敗例なのです。やはり、中学校で担っていたもの、部活動が担っていた教員の負担をただ単に地域に丸投げしてというか、学校がやっていたことを今度は地域でやってくださいみたいなどころは心配しております。全部が全部、そういったものを押し付けるというよりは、さっき事務局からもありましたけれども、地域で育てる。

その地域の中には、当然、学校もあるわけで、地域移行をしたから学校はもうノータッチですというのは無責任な感じがするので、学校も含めた地域で育てていく意識でないと、この調布モデルが成功しないと思います。

3つ目です。今日、どちらかという議論が中学生単体の活動認識で議論が進んだのです。そうではなくて、年齢考慮。例えば、小学校のクラブに中学生、高校生とか大人のクラブに中学生が入るといような状況で、地域で育てるとい。いろいろな大人に育ててもらえますし、例えば、中学生が小学生を教えるみたいな関係もできると思うのです。これは今までの部活でできなかった多様な経験ができるのではないかなと期待して、地域移

行・地域連携がある。ただ単に教員の働き方改革のための地域移行、部活を切り離したということではなく、中学生のほうの部活動の地域移行が地域活性の起爆剤になってくるといいなと思います。そういった意味では、中学生が人材というか、中学生が地域に入ってくることによって調布市も得るものが多いのではないかと思います。また、この議論は、今後進めていきたいと思います。

最初から完ぺきな計画とか完ぺきな地域移行はないと思うので、できるところからやってみましょうぐらいの感じで、それをやってみながら、トライ・アンド・エラーではないですけども、もうちょっと改善していくことが指導者の質も上げていく。最初から完ぺきな指導者って、中学校の部活指導、顧問もないのです。最初のほう、保護者ともめながらやっていって、やっと一人前になっていく。もっと温かい目で、緩い感じで進めていって、そこで改善が必要なところはどんどんブラッシュアップしていくほうが、うまくいくのではないかなと思っています。

まとめにならないかもしれないですけども、私のほうからは以上になります。

○司会 阿部先生、ありがとうございました。時間のほうもかなりたってまいりました。

皆様から様々な御意見、御感想をいただきました。資料5の計画素案、資料6のトライアル事業については、この間いただいた御意見を踏まえまして、最終的な調整につきましては事務局に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○司会 いただいた意見を踏まえながら、きっちり事務局のほうで対応していきたいと思っております。

それでは、了承というところで、こちらの素案、あとトライアル事業については、事務局のほうで最終的に形を作ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。ありがとうございます。

7 その他

○司会 それでは、次第に戻りまして、次第の7、その他に移ります。今後の進め方やその他、事務連絡について、事務局からお願いします。

○事務局(佐藤) 説明させていただきます。

まず、推進計画策定までのスケジュールについて御案内いたします。資料7をお願いします。

今後、8月から9月上旬までに、まず、子どものニーズ把握。先ほどもお話が出ていましたが、やっていきたいと思っております。生徒会向けのアンケート調査をまず実施する予定です。

その後、9月5日から10月4日、1箇月間でパブリックコメント手続きを実施し、また、その間に生徒会向けのアンケート調査の深掘りとして、実際に意見交換もできたらなというように現状考えております。

そういったことを踏まえ、10月に計画の最終調整を行い、10月22日に、またこの会、第3回検討委員会を開催させていただいて、改めて計画の最終案やトライアル事業の状況などについて御説明、御案内させていただきたいと思っております。

その後、教育委員会や庁内決定を踏まえ、こちらの計画、10月末の策定を予定しております。

説明は以上です。

そのほか、事務連絡をさせていただきます。ただいま御案内しましたが、次回の会議を10月22日火曜日、また夜6時半の時間から開催させていただきたいと思っております。委員の皆様におかれましては、御予定のほど、よろしく申し上げます。会が近付きましたら、開催通知を発送させていただきます。

また、今後、本日の議事録作成の上、市ホームページで公開を予定しています。公開前に一度、内容の確認をさせていただきますので、その際は御協力をお願いします。

事務連絡等は以上です。

○司会　ありがとうございます。今事務局から、策定までのスケジュールということで話がありました。これに基づいて、生徒の意見などをしっかりと聞いた中で進めてまいりたいと思っておりますので、御承知おきいただければと思っております。

それでは、長時間になりましたけれども、最後に、この会の閉会に当たりまして、生活文化スポーツ部長の徳永よりごあいさつさせていただきます。

○徳永　生活文化スポーツ部長の徳永と申します。よろしくお願いいたします。

本日、事務局として見れば予定の時間内に活発な御議論をいただきまして、ありがとうございます。今回のこちらの素案の21ページに書いておりますけれども、地域移行に向けた取組の中で、生徒がスポーツ・文化芸術活動を継続的に行えるような、持続可能な仕組みの構築が必要だというところが、私は本当に大事だなと。

今回のこの議論の中におきましても、現場における課題もいただきましたし、そして、

やはり生徒のニーズが大事なのだというお話もございました。そういったところをしっかりと持って、今回の資料6にもありましたトライアル事業に臨んでいければなと思っております。

このトライアル事業を臨むに当たりまして、私どもはしっかりと検証して、次につながるものが令和9年の、令和8年の策定につながるのかなと思っております。第3回までの検討委員会までには様々なタイトなスケジュールとなっておりますが、また皆様の御協力をお願いできればと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますけれども、今日からパリ2024オリンピック大会が開幕ということで、調布ゆかりの選手も出場しております。また、調布市スポーツ協会の金子副会長が今回、水泳の選手団の団長としてパリで御活躍をされております。皆様、ぜひ、この日本選手団を応援していただきたいなど。また、今回の私たちが作ってまいります地域連携のスポーツクラブが後々に、そこからまたオリンピックなどが出たらなと思いつつ、ぜひ数日のオリンピックを楽しんでいただけたらと思います。よろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

8 閉会

○司会 ありがとうございました。

それでは、長時間にわたりまして、皆様、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、第2回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を終了させていただきます。お疲れさまでした。